

外国人留学生在が考える日本留学に必要な能力とは

ーテキストマイニングによる共起ネットワークと特徴語の分析からー

永 岡 悦 子

鄭 惠 先

1. はじめに

1996年に流通情報学部が開設されてから、2021年で25年目を迎えた。『流通経済大学30年史』によれば、流通情報学部では物流情報の研究・教育を行うことを目的とし、開設当初から180名の入学定員に対し50名を外国人留学生枠とすることが設けられて以来、四半世紀にわたり留学生の受け入れと教育を行なってきた。その間、政府の「留学生10万人計画」推進に伴う留学生数の急増や、「留学生30万人計画」への政策転換による留学生の受入や支援の変化、そして2011年の東日本大震災後や2019年末からの新型コロナウイルスの感染拡大という外国人留学生が減少する苦難の時期を経て現在に至る。日本社会の変化とともに、日本を取り巻くアジア各国の経済成長に伴う環境変化も著しく、それに伴い留学生数や受入国も大幅に変化した。当初は母国の経済発展のために苦学をしながら学ぶ留学生が中心であったが、経済の発展と国際化の影響により留学の大衆化が進み、アジアの人々にとって日本への留学はもはや珍しいものではなくなった。本稿では、留学の価値が転換する中で、現在日本で学ぶ留学生が留学に対してどのような意義を感じているのか、また異文化に対してどのような意識を持っているかについて、計量テキスト分析の手法を用い、外国人留学生の異文化に対する意識調査の結果を分析する。そこに記述されている話題（概念）を抽出した上で、学習者の特徴別の傾向を明らかにするとともに、外国人留学生に必要とされる能力について考察することを目的とする。

2. 先行研究

日本で学ぶ外国人留学生の異文化適応を調査し、社会心理学的手法で分析した先駆的

な研究に岩尾・萩原（1988）がある。日本の留学生の受け入れが大きく拡大したのは、1983年に策定された「留学生10万人計画」が契機となっている。1970年代は5000人前後で推移してきた外国人留学生数が1983年に初めて1万人を超え、1993年に10万人に達した。岩尾・萩原（1988）では、この間の変化について、1975年と1985年の2度にわたり質問紙調査を実施している。その結果をみると、2度の調査のどちらにおいても、「日本での生活が長くなり、日本語が上達するにつれて、日本社会の閉鎖性を強く感じ始め、外国人に対する日本人の態度に厳しい目を向けるようになる」（岩尾・萩原1988：72）と述べ、留学生を取り巻く社会環境の厳しさを指摘している。特に、留学生が社会に適応するうえでの最大の問題は日本人との人間関係であり、「日本人の考え方」、「外国人に対する日本人の態度」、「日本人とのコミュニケーション」などの対人関係に直結する要因が適応上の障害として強く認識されていることが明らかにされている（岩尾・萩原1988：73）。

21世紀に入り、グローバル化の進展とアジア諸国の急激な経済発展に伴い、外国人留学生の日本留学に対する印象に変化もみられる。永岡・鄭（2018）では、日本の大学で学ぶ外国人留学生を対象に、国籍、学生種別（国費・私費）、学習環境、日本語力といった勉強条件の違いと異文化理解の関係について記述式のアンケート調査を行った。そして、学生の必要とする資質・能力の特徴を国立教育政策研究所（2016）が汎用的能力を分類した基礎的リテラシー、認知スキル、社会スキルと関連付けて分析し、「日本語」がそれぞれのスキルをつなぐ中心的な要素であることを検証した。

次に、永岡（2019）では、永岡・鄭（2018）と同様の調査で対象者を増やして実施し、回答を日本語能力のレベル別に分析して異文化間能力と日本語能力との関係を検討した。その結果、留学生の異文化間能力において日本語能力が非常に重要な要素になっていることを再確認するとともに、日本語能力によって問題解決方法や必要とする能力の違いが見られることを指摘している。日本語能力試験の取得状況によってグループ分けをすると、N1グループの留学生は、意識的に日本人との人間関係を築いたり、学習ストラテジーを活用したりすることで、問題解決や日本語学習に取り組み、「日本語」を中心としながら、さらに英語や専門知識を学ぶ意欲がみられた。N2、N3グループは学校や先生、先輩など自分より知識がある人の支援を受けて問題を解決しようとしており、N1グループよりコミュニケーションを求めていることがわかった。

さらに永岡（2020）では、永岡（2019）のデータにおける国籍の違いに注目し、中国人とベトナム人留学生の異文化理解に対する意識の比較分析を行った。その結果、異文化間能力につながる日本語能力の重要性や、留学生活の中で自立し成長できたこと、そして日本文化や日本人の精神性への理解を深めたことを共通して留学の意義と捉えていた。一方で、中国人留学生とベトナム人留学生では、それぞれに対する日本人の態度に差があり、ベトナム人留学生がより偏見を受けやすいこと、また中国人学生とベトナム

人学生との間に経済的格差があり、生活や将来の進路に対する考え方にも影響していることが明らかになった。

これらの研究と岩尾・荻原（1988）を比較すると、留学生在が日本での異文化適応に日本語能力とコミュニケーション能力を重視している点で共通している。相違点としては、岩尾・荻原（1988）では日本語能力が高く滞日期間が長いほど日本社会へ批判的になるとしているが、永岡・鄭（2018）、永岡（2019, 2020）では日本語能力の高さは人間関係や可能性を広げ、日本留学に対する肯定的な評価につながっていた点である。日本語の役割や日本社会の閉鎖性という点では約30年前と変わらない点もあるが、外国人留学生在の評価や受け入れ環境という点では変化も見られる。過去の研究を踏まえ、現在と今後の留学生在教育の改善のために、留学生在の特徴に応じた異文化適応や異文化間能力について検討していく必要がある。

3. 調査の概要

3.1 調査対象

本研究では、日本の大学で学ぶ外国人留学生在を対象として、異文化理解に対する記述式のアンケート調査を行った。この調査は、2017年7月に最初の調査を開始して以来、数回にわたり継続的に調査を続けてデータを増やしてきた。これまでいくつかの異なるアプローチで途中成果を発表しており、それらの詳細は、前述した永岡・鄭（2018）、永岡（2020）を見られたい。調査の目的は、外国人留学生在が日本生活のどこでつまずき、それをどう解決しているか、また彼らがみずから必要だと感じる異文化間能力とは何かを調べることである。そのために、記述式アンケート調査で提示した設問は、以下の6項目である。

- | | |
|----|---|
| 問1 | 日本に留学してよかったと思うことはなんですか。その理由はなんですか。 |
| 問2 | 日本での生活が、将来のあなたの人生にどのように役立つと思いますか。その理由はなんですか。 |
| 問3 | これまでの日本生活で、失敗したり困ったり不安に思ったりしたことはありますか。それはなぜでしたか。 |
| 問4 | 問3に書いた問題をどのように解決しましたか。 |
| 問5 | 日本での生活をより充実させるために、今のあなたにもっとも必要な能力は何だと思いますか。
例)「日本語能力」「社交性」「研究・学習能力」「積極的な態度」「問題解決能力」「向上心」「リーダーシップ」「協調性」などなど |
| 問6 | 問5に書いた能力を高めるために、あなたは今現在どんな努力をしていますか。または、すべきだと思いますか。 |

本稿では、これまで増やしてきたデータを活用して分析を行う。対象となる被験者の詳細は表1のとおりである。

表 1 調査対象の内訳

身分	短期留学生	学部生	大学院生	合計
人数	12	184	7	203

分析では、もっともデータ数が多い学部生を中心に、抽出された話題をもとに考察しつつ、あわせて回答結果が身分・在日期間・日本語能力・国籍という4つの外部変数とどう関連するかにも注目する。そのために、「特徴語分析」という分析方法を新たに取り入れる。

3.2 分析方法

本研究では、KH Coder（樋口 2014）を使用した計量テキスト分析を行った。KH Coder は、テキスト型データを統計的に分析するためのソフトウェアで、本研究で収集したアンケートの自由記述のような文章データの分析に適合している。とりわけ、本稿で取りあげるのは、共起ネットワークによって抽出された話題（概念）を分析する「概観分析」と、外部変数によって抽出された特徴的な語を分析する「特徴語分析」の2つの手法である。

KH Coder を用いて計量テキスト分析を行う際には、事前に生のデータを整える作業を行う必要がある。詳しくは、①辞書作成、②標記ゆれと同義語の吸収、③使用しない語の選定、④対象品詞の選定、である。「辞書作成」では、「異／文化」→「異文化」のように、分割によって意味が大きく変化する語を一語として設定する。「標記ゆれと同義語の吸収」では、「アルバイト、バイト」→「アルバイト」のように結果解釈に影響しうる語の「ゆれ」を吸収する。「使用しない語の選定」では、「行く」「思う」「色々」のように普遍的な語を中心に使用しない語に指定する。「対象品詞の選定」では、サ変名詞、形容動詞など分析に有益と考えられる品詞を個別に選定する。これらの事前準備を経て新たに整えられたデータを用いて、以下の2つの分析を行った。

3.2.1 概観分析

「概観分析」とは、アンケート調査に記述されている話題（概念）を抽出して分析を行うことである。分析の際に用いられた基本統計量は、アンケートの設問1～6の項目ごとに異なる。よって、「対象文章数」、すべての語の延べ数の「総抽出語数」、重複を排除した「異なり語数」の詳細については、4節の各項目にて別に示す。まず、今回の概観分析では、元データのすべての語から出現回数の多い上位150語の頻出語を抽出した。そこから全体象を把握した上で、あらためて共起ネットワークを用いて話題（概念）の抽出を行った。「共起ネットワーク」とは、出現パターンの似通った語を、共起関係を表す線で結んだネットワークで可視化したものである。共起関係の強い語同士が線でつながり、いくつかのグループを形成しているので、分析者は分析ツールで元の

データを確認しつつ、各グループの語を含む文脈を正しく理解した上で、それぞれのグループに対して話題（概念）を命名する。今回の共起ネットワークの作成では、共起関係の選択の基準として、最小出現数5回以上の上位50語を対象とした。

3.2.2 特徴語分析

「特徴語分析」とは、外部変数によって特徴的な語を抽出し、外部変数との因果関係を探る分析方法である。外部変数との共起の強さを表すのが「jaccard 係数」と呼ばれるもので、これが集合の類似度を測る指標となる。この jaccard 係数をもとに、各変数に特徴的な語が上位にランクされ、複数の変数に共通する語は省かれやすくなる。通常、jaccard 係数0.1以上で「関連が強い」と言われることが多いが、あくまでも jaccard 係数は相対的に評価するための指標であり、数値そのものが関連性の絶対的基準になるものではないため、他の特徴語と照らし合わせながら総合的に判断する必要がある。

本稿では、外部変数として、被験者の「身分」「在日期間」「日本語能力」「国籍」の4つの区分を取りあげる。今回のデータでは変数別の人数にばらつきがあるものの、特徴語分析というこれまでとは異なる観点から変数別の傾向を考察することは留学生の特徴を多角的に分析する上で意義があると考ええる。

4. 分析結果

4.1 概観分析

本節では、「共起ネットワーク」の分析からアンケート結果の概念を抽出し、それをもとに留学生の意識の分析を行う。

(1) 日本留学の意義

外国人留学生にとっての日本留学の意義をたずねるため、「問1 日本に留学してよかったと思うことはなんですか。その理由はなんですか。」という設問を設定した。問1に対する回答の基本統計量は、対象文章数661文、総抽出語数1500、異なり語数485であり、この回答をもとに共起ネットワークを作成すると、図1のようになる。実線でつながれた語のまとまりから8つのネットワークが生成され、11種類的话题を抽出することができた。

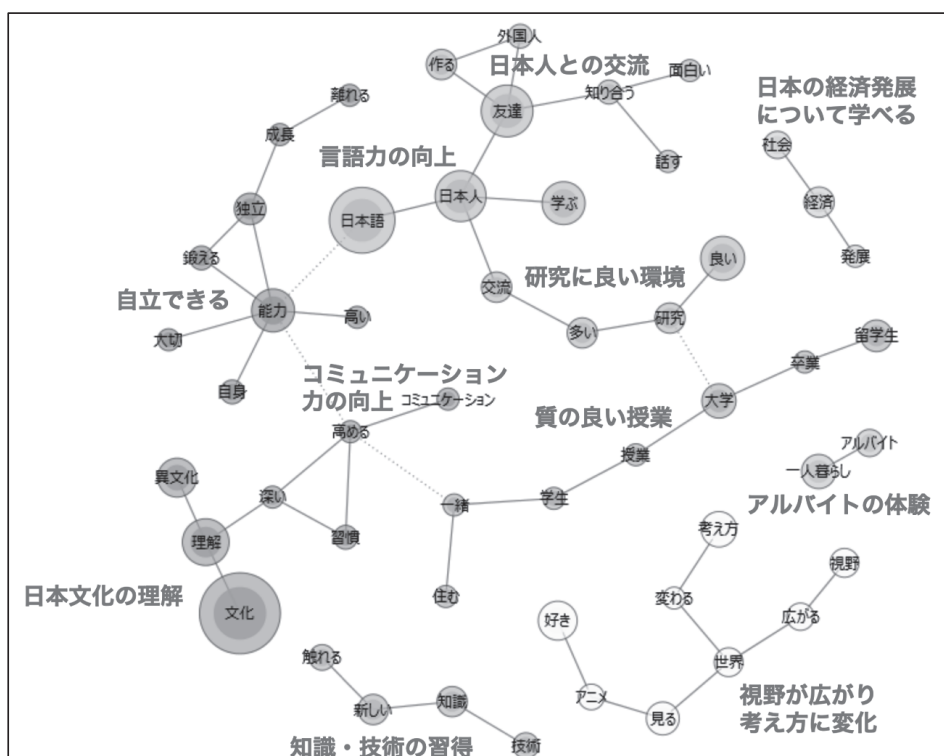


図1 「日本に留学してよかったこととその理由」での共起ネットワーク

まず、「日本語」を中心に「日本人」-「友達」-「交流」というつながりから、「①言語力の向上」と「②日本人との交流」という話題が抽出できた。また「コミュニケーション」-「高める」というつながりから、「③コミュニケーション力の向上」もあげられる。これらのことから、異文化でコミュニケーションができるようになったことに大きな意義を感じていることがわかる。

続いて学習面では、「良い」-「研究」というつながりから、日本留学が「④研究に良い環境」だと捉えられていることがわかる。また、「良い」-「研究」と関連して、「大学」-「授業」というつながりから、大学では「⑤質の良い授業」が受講でき、学ぶ内容としては「社会」-「経済」-「発展」などから「⑥日本の経済発展について学べる」ことや、「新しい」-「知識」-「技術」というつながりから、「⑦知識・技術の習得」があげられている。さらに、「日本語」に並ぶ大きな円は「文化」であり、「文化」-「理解」というつながりから「⑧日本文化の理解」も重要な日本留学の成果として捉えられている。以上のネットワークと抽出された概念から、留学生は日本留学という環境を、新たな知識が学べる良い学習環境として認識していることがわかる。

その他、「アルバイト」-「一人暮らし」や、「独立」-「能力」というつながりは、資格

外活動としてアルバイトをしながら家族と離れて生活している日本留学の特徴を反映している。「⑨アルバイトの体験」や「⑩自立できる」という、留學生活を通じた精神的な成長や、大学で学んだ知識から、「世界」-「広がる」-「視野」という語が示すように、「⑪視野が広がり考え方に变化」がもたらされ、精神的に成長した実感をもっていると考えられる。

以上のことから、異文化でのコミュニケーション能力の獲得と新たな環境での新たな知識の獲得、そして一人暮らしやアルバイトといった新たな体験からの精神的な成長が、留学生にとっての日本留学の意義であると考えられる。

続いて、留学経験をどのように活かせるかについて、「問2 日本での生活が、将来のあなたの人生にどのように役立つと思いますか。その理由はなんですか。」という設問を設けた。問2に対する回答の基本統計量は、対象文章数642文、総抽出語数1546、異なり語数518であり、この回答をもとに共起ネットワークを作成すると、図2のようになる。ここでは10のネットワークが形成され、11の話題を抽出することができた。

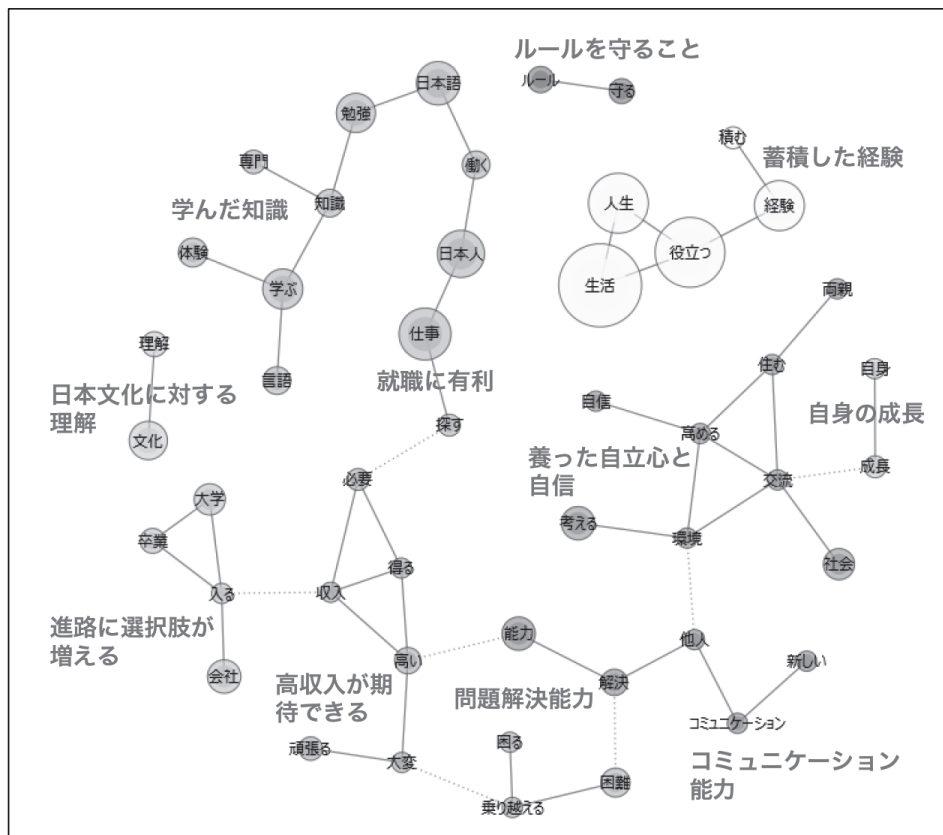


図2 「将来の人生に役立つこととその理由」での共起ネットワーク

問1と同様に、留学で学んだこととしては、「日本語」や「専門」「知識」といった大学で「①学んだ知識」があげられる。次に、「文化」-「理解」というつながりから「②日本文化に対する理解」や「③ルールを守ること」、さらに「能力」という言葉とのつながりから、「④問題解決能力」、「⑤コミュニケーション能力」などが留学生活で身に付いた知識や能力だと考えられる。これらの知識や能力に「⑥蓄積した経験」が加わり、大きく2つの面に役立つと考えられている。1つは、問1でも見られたように「⑦自身の成長」や「⑧養った自立心」のような精神的な成長を促しているということである。もう1つは、「⑨就職に有利」になり、「⑩進路の選択肢が増える」「⑪高収入が期待できる」ようになることである。つまり、留学で身に付けた知識や経験が進路選択の役に立つと考えていることがわかる。

(2) 日本生活での問題解決

では、このような留学の意義を感じるようになるまでに、留学生にはどのような苦労や問題があったのだろうか。それを知るために、「問3 これまでの日本生活で、失敗したり困ったり不安に思ったりしたことはありますか。それはなぜでしたか。」という設問を設けた。問3に対する回答の基本統計量は、対象文章数640文、総抽出語数1343、異なり語数554であり、この回答をもとに共起ネットワークを作成すると、図3のようになる。実線でつながれた語のまとまりから8つのネットワークが生成され、14種類の話題を抽出することができた。

まず特徴的なことは、「日本語」-「不安」-「生活」というつながりからわかるように、「①日本語能力に不安」があることが生活の不安に直結していることである。特に「生活」-「失敗」-「アルバイト」というつながりから、「②アルバイト探しで苦労」することは「生活」に大きな影響をもたらしていると考えられる。日本語が十分にできないことの影響は、「言葉」-「通じる（否定）」という部分にも表れており、「③言葉が通じない」「④相手に通じるか心配」というコミュニケーションに対する不安と関連している。さらに大学に進学すべきか「⑤進路に迷う」ほか、「⑥学業に対する不安」「⑦試験に落ちる」といった学業上の不安にも発展している。

「言葉」-「理解」-「文化」-「違う」というつながりから、日本語の理解には文化の差も影響しており、留学生は「⑧文化の差異による戸惑い」を抱えていることがわかる。文化の差による生活上の不安や苦労は広範囲に及んでおり、「⑨日本の習慣に慣れない」「⑩交通機関をうまく利用できない」「⑪日本の生活ルールが分からない」という留学生自身の行動上の問題のほか、「⑫外国人に対する偏見」という、日本人の行動にも影響を与え、問題を生じさせることもある。その他、「⑬单身生活の寂しさ」や、「⑭お金・経験の不足」という要素も生活上の不安につながっていると言えるであろう。

このような留学生活の問題に対する解決策を調べるため、「問4 問3に書いた問題をどのように解決しましたか。」という設問を設けた。問4に対する回答の基本統計量

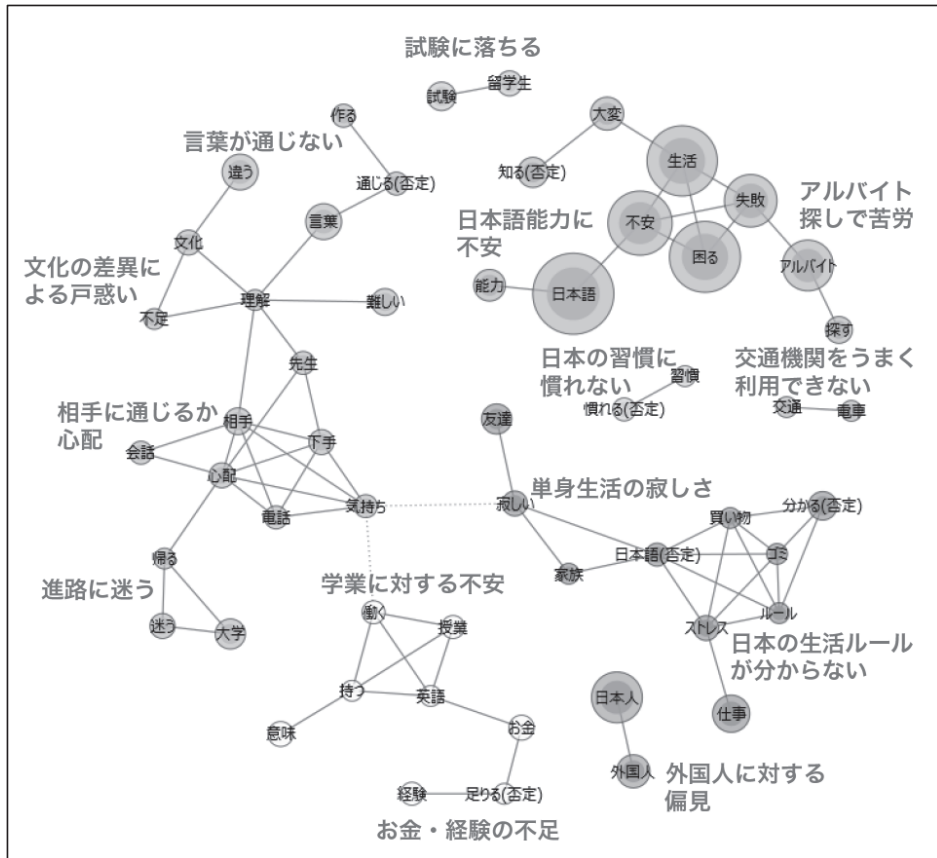
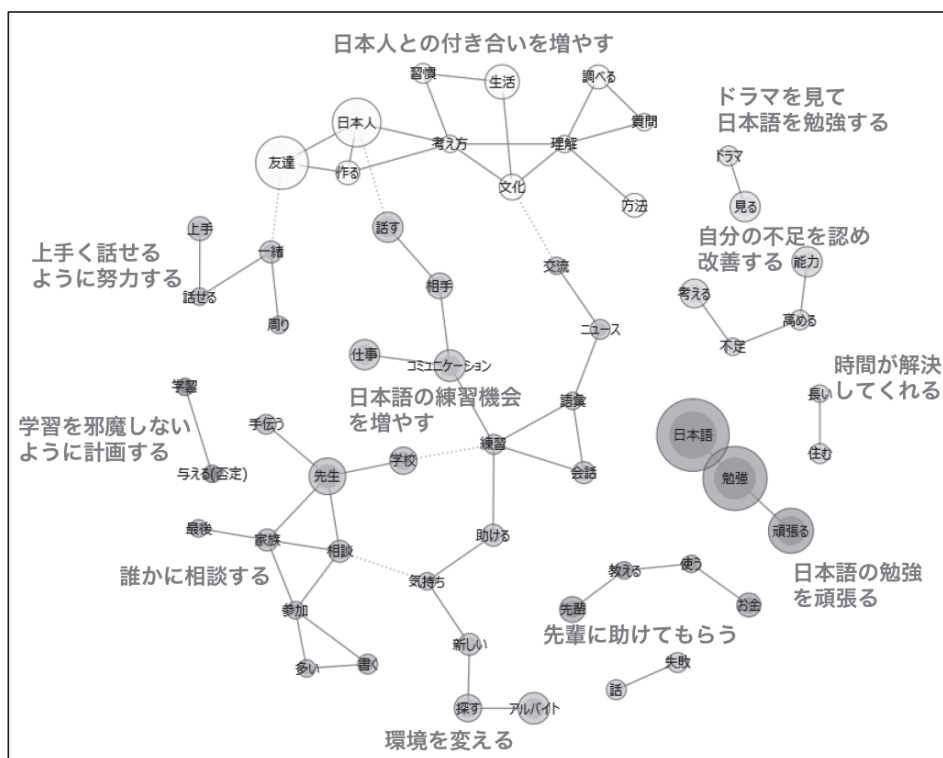


図3 「日本生活での失敗・不安とその理由」での共起ネットワーク

は、対象文章数517文、総抽出語数1006、異なり語数407であり、この回答をもとに共起ネットワークを作成すると、図4のようになる。ここでは、11のネットワークが生成され、11種類的话题を抽出することができた。

問3で留学生の日本語の問題が生活や人とのコミュニケーション、そして学業や文化の理解にも影響していることが確認できたが、これらの問題点を克服するために留学生は、「日本語」-「勉強」-「頑張る」というつながりが示すように、「①日本語の勉強を頑張る」ことをあげている。日本語を向上させるために、「②上手く話せるように努力する」「③日本語の練習機会を増やす」「④ドラマを見て日本語を勉強する」などの方法に取り組んでいる。「日本人」-「友達」-「作る」のように、「⑤日本人との付き合いを増やす」というコミュニケーション上の努力も見られる。また、「⑥自分の不足を認め改善する」のように自分自身を振り返ることや、「⑦学習を邪魔しないように計画する」など、メタ認知を働かせ、学習を管理している様子もうかがえる。自分で解決できない場合には、「⑧誰かに相談する」「⑨先輩に助けてもらう」といった、社会的ストラテジーの活



用もみられる。解決が困難な場合は、「⑩環境を変える」「⑪時間が解決してくれる」のように、環境や時間という外的要因に問題解決をゆだねることも、異文化摩擦を解決する方法として活用していることがわかる。

(3) 日本生活に必要な能力

日本留学の中で必要な能力について、「問5 日本での生活をより充実させるために、今のあなたにもっとも必要な能力は何だと思いますか。」という設問を設けた。問5に対する回答の基本統計量は、対象文章数607文、総抽出語数1184、異なり語数313であり、この回答をもとに共起ネットワークを作成すると、図5のようになる。その結果、10のネットワークが生成され、11種類的话题を抽出することができた。

もっとも数が多い話題は、大きな円が連なる「①日本語能力とコミュニケーション能力」である。これは、日本の生活の中での失敗や不安が日本語能力の不足によるものであったこととも一致する。日本での生活には、まず日本語が必要であることが改めて浮き彫りになった。これに関連して、「②高い日本語能力」「③日本文化をもっと理解する」「④日本人との交流を深める」という話題も、日本語と日本語によるコミュニケーション能力を上げるために必要な要素であると考えられる。日本語能力の次に、大学で

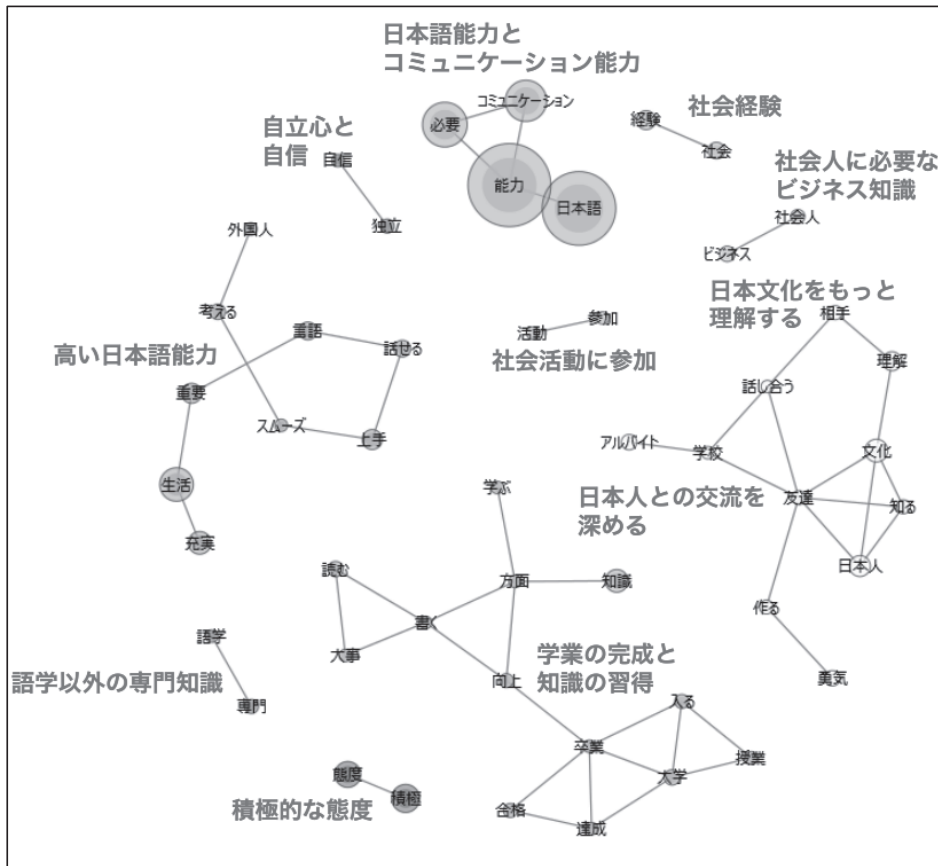


図5 「日本生活に必要な能力」での共起ネットワーク

学ぶ留学生として必要となるのは「⑤学業の完成と知識の習得」「⑥語学以外の専門知識」である。大学で学ぶ学生として、専門分野について学び、卒業できるように単位を修得できる能力が求められていると考えられる。続いて、交流を広げたり、将来の就職活動に向けて必要とされたりする「⑦社会経験」「⑧社会活動に参加」「⑨社会人に必要なビジネス知識」というのは、社会経験にまつわるものである。最後に、「⑩積極的な態度」と「⑪自立心と自信」である。問1でたずねた留学の意義や、問2でたずねた将来に役立つ能力においても自立心や自信があげられていたが、精神的に成長するためにまずは自分から進んで行動する積極的な態度や自立心は、10代後半から20代という社会的経験が十分でない段階に家族と離れて異国で生活する上で、必然的に必要になってくるものと言えるだろう。

アンケートの最後に、「問6 問5に書いた能力を高めるために、あなたは今現在どんな努力をしていますか。または、すべきだと思いますか。」という設問を設けた。問6に対する回答の基本統計量は、対象文章数554文、総抽出語数1339、異なり語数406で

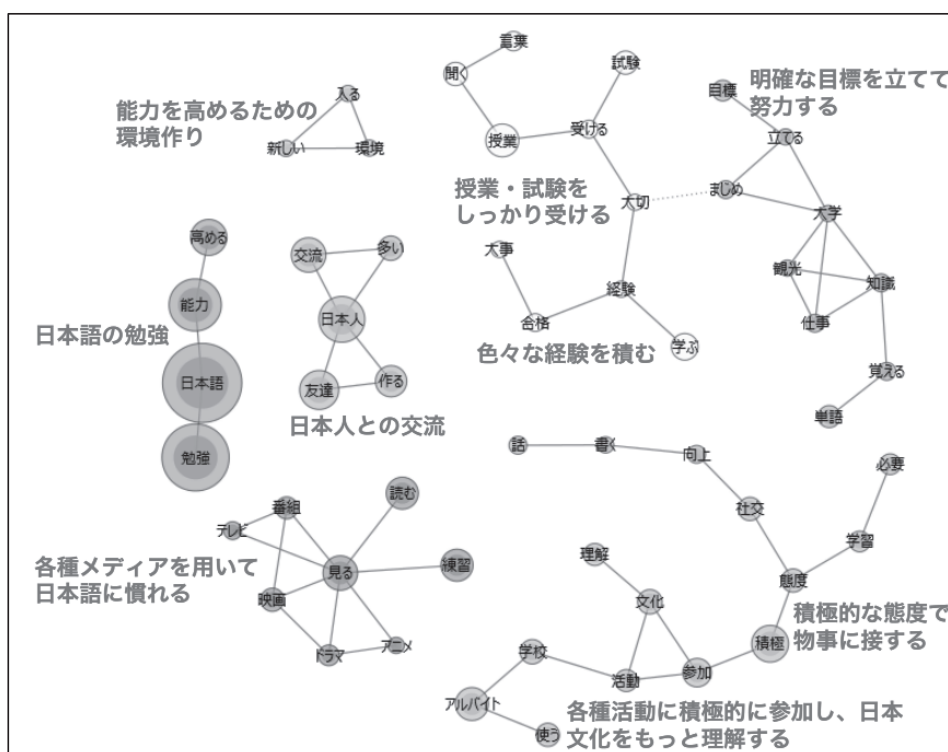


図6 「日本生活で必要な能力のためにすべきこと」での共起ネットワーク

あり、この回答をもとに共起ネットワークを作成すると、図6のようになる。その結果、7のネットワークが生成され、9種類的话题を抽出することができた。

問5と同様に、「①日本語の勉強」という話題が、日本語学習に関する言及によるもっとも大きい円のつながりとして抽出された。また日本語能力やコミュニケーション能力の向上に対する努力として「②日本人との交流」「③各種メディアを用いて日本語になれる」という話題があがっている。また大学での学びについては「④授業・試験をしっかりと受ける」ことや「⑤いろいろな経験を積む」こと、そのために「⑥能力を高める環境作り」をすること、「⑦明確な目標を立てて努力する」という学習を管理するメタ認知能力の必要性も指摘されている。そして、「⑧積極的な態度で物事に接する」「⑨各種活動に積極的に参加し、日本文化をもっと理解する」という意欲や態度の重要性についても改めて示されている。

4.2 特徴語分析

本節では、身分、在日期间、日本語能力、国籍という4つの外部変数に焦点をあて、各群に特徴的に表れる語をもとに、外国人留学生の現状と異文化に対する意識を調べて

いく。ここでは、問1～6という設問ごとではなく、上記の4つの外部変数ごとにそれぞれの傾向を考察する。

4.2.1 身分別の傾向

本研究での調査対象は、学部生、短期留学生、研究生を含む大学院生の3つの身分に分けられる。表1で示したとおり、学部生の割合が高く全体の人数に偏りがあるため、定量的な側面から相互比較することは難しい。しかし、質的分析の1つとなる「特徴語分析」を通して何らかの傾向が見出せることを目指す。

(1) 日本留学の意義

問1の「日本に留学してよかったこととその理由」と、問2の「将来の人生に役立つこととその理由」への回答から、身分別の特徴語をまとめたのが表2と表3である。表にはjaccard係数が高い順に身分別の特徴語Top10が示されている。jaccard係数とは各群（身分）と共起の強さを表す数値であるため、3つの群の間で共通している語は省かれやすく、それぞれの群に特徴的な語がより上位にランクされることとなる。なお、jaccard係数の読み方（大きさ）として0.1を超えた場合に「関連がある」という見方があるが、あくまでもjaccard係数は相対的に評価するための指標であり、KH Coderの開発者である樋口氏は「データが全体としてどの程度スパース（粗）かといったことによって、値の『重み』という実質的な関連の強さというかが、変わってくる」と述べている⁽¹⁾。よって、本稿では必ずしもjaccard係数0.1以上ではなく、表に示した上位の特徴語全体に注目して相対的に読み解くという方針で分析を進める。

まず、jaccard係数が0.1を超えるものとして、表2では学部生の「文化（0.111）」と大学院生の「多い（0.179）・研究（0.143）」、表3では学部生の「生活（0.145）」という語がある。この数値には、ある程度日本生活に慣れてきて日本文化に接することが多い学部生と、学内で研究センターの留学生を送る大学院生の特徴が強く反映されていると考えられる。

そのほか、身分別の差が明確に出ているのは、表2では、短期留学生の「体験・友達（友だち）・出会う」といった体験重視の語と、学部生の「文化・異文化・生活・日本人」といった日本社会適応に関連する語と、研究生・大学院生の「研究・考え方・情報・専門・技術」といったアカデミック重視の語だと言える。表3では、短期と学部生に見られる「働く・仕事・アルバイト」といった社会活動関連の語が、大学院生には見られないという特徴がある。

一方、「将来の人生に役立つこと」として学部生にも大学院生にも共通して見られるものに「自立性」に関連する特徴語がある。詳しく言えば、学部生の「独立」は「自立（性）が養われた」という文脈で、大学院生の「外国人」は、「外国人として（中略）自分で全ての事を解決しなければならないので、自分の能力が上がった」という文脈で用いられている。

表2 「日本に留学してよかったこととその理由」での身分別の特徴語

短期留学生		学部生		研究生・大学院・その他	
日本語	.093	文化	.111	多い	.179
体験	.091	生活	.085	研究	.143
友達	.057	勉強	.074	考え方	.091
考える	.046	日本人	.050	情報	.087
少ない	.046	理解	.037	専門	.080
友だち	.046	能力	.034	技術	.071
自信	.044	学ぶ	.033	違う	.059
聞く	.044	良い	.033	大学	.059
話す	.044	異文化	.029	良い	.047
出会う	.042	好き	.024	理解	.044

表3 「将来の人生に役立つこととその理由」での身分別の特徴語

短期留学生		学部生		研究生・大学院・その他	
考える	.069	生活	.145	外国人	.077
役立つ	.064	人生	.082	文化	.073
日本語	.059	仕事	.056	考え方	.065
日本人	.057	勉強	.032	体験	.059
働く	.056	大学	.021	能力	.051
生活	.052	社会	.021	日本語	.041
経験	.052	アルバイト	.019	頑張れる	.039
学ぶ	.046	困難	.019	生存	.039
メール	.043	独立	.019	全身	.039
使う	.042	ルール	.016	通訳(否定)	.039

(2) 日本生活での問題解決

問3の「日本生活での失敗・不安とその理由」と、問4の「日本生活での失敗・不安の解決法」への回答から、身分別の特徴語をまとめたのが表4と表5である。

ここでjaccard係数が0.1を超えるのは、表4で学部生の「日本語(0.103)」, 大学院生の「相手(0.111)・電話(0.111)・心配(0.105)」, 表5で学部生の「日本語(0.115)」である。学部生では、まず表4で「日本語」とともに用いられた「勉強」という日本語学習に関する語と、「アルバイト・仕事」という社会活動に関する語の両方が見られており、勉学と生活の両面で不安を抱えていることがわかる。続いて表5で見られる「日本語・勉強・頑張る・能力・コミュニケーション・話す・学ぶ」という特徴語は、すべて日本語能力不足を補うまたは上達させるための方法として示した内容であり、「アルバイト」も日本語能力上達の手段の1つという発言があった。

短期留学生の場合、表4の「発音・伝える(否定)」から、日本語でのコミュニケーションに悩む様子がうかがえるが、表5の「友達・作る・日本人・聞く」という語から、

表4 「日本生活での失敗・不安とその理由」での身分別の特徴語

短期留学生		学部生		研究生・大学院・その他	
授業	.071	日本語	.103	相手	.111
発音	.050	困る	.087	電話	.111
取る	.049	生活	.080	心配	.105
伝える(否定)	.049	不安	.075	言葉	.077
日本人	.047	失敗	.050	ていねい	.067
先生	.047	アルバイト	.044	応じる	.067
最初	.035	仕事	.024	恐れ	.067
うつ病	.025	勉強	.022	見える(否定)	.067
クラス	.025	違う	.021	捨てる	.067
コマ	.025	多い	.021	終わる(否定)	.067

表5 「日本生活での失敗・不安の解決法」での身分別の特徴語

短期留学生		学部生		研究生・大学院・その他	
一所懸命	.067	日本語	.115	捨てる	.091
作る	.059	勉強	.096	買う	.087
文化	.059	解決	.071	ドラマ	.083
日本人	.058	頑張る	.045	話	.083
聞く	.056	アルバイト	.024	見る	.067
友達	.052	解決(否定)	.024	先生	.059
生活	.049	能力	.022	ていねい	.046
解決	.048	コミュニケーション	.019	ワイン	.046
お互い	.033	話す	.019	覚える	.046
キャンセル	.033	学ぶ	.017	基づく	.046

人的ネットワークを作り、それを活用して問題解決を図っていることがわかる。ちなみに、大学院生での「電話・相手」「ワイン・買う・捨てる」という語はそれぞれ同じエピソードからのもので、「相手の気持ちがよくわからない」「考え方の違いを学んだ」という話の中で用いられた。「ドラマ・見る・ていねい・覚える」も同じ人の日本語学習方法についてのくり返された回答による特徴語であり、全体の傾向として見なすことは難しいと判断される。

(3) 日本生活に必要な能力

問5の「日本生活に必要な能力」と、問6の「日本生活に必要な能力のためにすべきこと」への回答から、身分別の特徴語をまとめたのが表6と表7である。

ここでjaccard係数がもっとも高いのは、表7で学部生の「勉強(0.148)」であるが、ほかにも身分別にいくつかの特徴が見られる。まず、短期留学生では、表6の「積極・日本人・社交」、表7の「積極・参加・友だち・作る」が他の群には見られない語で、短期留学ならではの特徴として交流重視の傾向が顕著に表れている。学部生の場合、表

表6 「日本生活で必要な能力」での身分別の特徴語

短期留学生		学部生		研究生・大学院・その他	
積極	.074	必要	.093	話す	.087
日本語	.053	コミュニケーション	.078	重要	.080
日本人	.043	生活	.049	解決	.067
態度	.038	勉強	.035	コントロール	.056
学習	.037	英語	.025	感情	.056
社交	.032	充実	.022	雑談	.056
クラス	.026	文化	.022	自然	.056
グループワーク	.026	大切	.020	表現	.056
レストラン	.026	知識	.020	日本語	.053
暗記	.026	向上心	.020	管理	.053

表7 「日本生活で必要な能力のためにすべきこと」での身分別の特徴語

短期留学生		学部生		研究生・大学院・その他	
積極	.093	勉強	.148	考える	.095
参加	.065	能力	.096	授業	.061
日本人	.058	努力	.062	読む	.061
友だち	.056	頑張る	.052	クラブ	.056
話題	.056	友達	.050	リスト	.056
番組	.048	高める	.040	レポート	.056
映画	.047	アルバイト	.038	会議	.056
話す	.044	練習	.036	学生	.056
作る	.039	交流	.036	起きる	.056
授業	.039	英語	.032	決まる	.056

6の「コミュニケーション・生活」という語が「文化」という語と一文の中で一緒に用いられることが多く、とりわけ日本社会と文化への理解・適応に必要な能力に注目していると思われる。さらに、表7の「勉強・能力・努力・頑張る・高める・練習」という語が日本語学習についての文脈の中で多く表れていることから、勉学上必要な能力として、表6の「英語」も含めて、日本語のみならず言語の重要性を強く意識していることがわかる。

大学院生の場合、実際には日本語能力についての発言が多かったが、表6では特徴語としてそれほどピックアップされていない。jaccard 係数が相対的な特徴語を抽出しており、共通の語は下位になりやすいことから、他の群との被りで相殺されたのが原因ではないかと推測される。しかし、表7では「授業・読む・レポート・(言葉) リスト」など日本語学習に係わる語が目立ち、さらに特徴と言えるのは学部生の「努力・頑張る」などと違って、具体的な学習方法に注目している点である。

以上、身分別の特徴語について考察した。人数の偏りによって定量的な比較は難しい

としても、短期留学生の交流重視の傾向や、学部生の勉学と生活の両立への意識、大学院生の研究志向などがある程度は浮き彫りになったのではないかと考える。

4.2.2 在日期間別の傾向

アンケートの際に提示した在日期間の区分は、1年未満、1年～3年未満、3年～5年未満、5年以上の4段階である。詳細は以下の表8のとおりだが、短期留学生はほぼ全員が1年未満であり、学部生は1年以上が多いという面で、前述した身分という変数と連動性が著しい。よって、前節での分析結果に共通するところも少なくないが、必ずしもそうではないこと、そして身分別の傾向とあわせて考察することでさらに明確に見えてくる特徴があるということで、ここで節を改めて述べることにする。

表8 在日期間別の人数と身分

区分	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年以上
人数	15	89	89	8

※未記入2名は分析対象から除外

(1) 日本留学の意義

問1の「日本に留学してよかったこととその理由」と、問2の「将来の人生に役立つこととその理由」への回答から、在日期間別の特徴語をまとめたのが表9と表10である。

まず、jaccard 係数が0.1を超えるのは、表9で1年～3年未満の「文化 (0.112)」, 表10で1年未満の「経験 (0.100)」, 1年～3年未満の「生活 (0.145)」 「役立つ (0.111)」である。まず表9では、期間の短い方では「体験・経験・聞く・話す」など触れ合いに関する語が見受けられるのに対して、期間の長い方は「経済・コンテスト・ボランティア」など日本社会により深く関わる語が見受けられる。日本留学の意義として、1年未満で「体験・経験」が多いのは、短期留学生が多いことが影響している可能性が高く、前節で分析した短期留学生の交流重視の傾向と密接に関係していると考えられる。

また、表10で見ると、将来の人生に役立つものとして、「働く・会社・仕事・就職」などの社会活動に関する特徴語はすべての期間に共通して見られており、現在の留学の成果を卒業後の進路につなげようとする意識が顕著である。中でも、5年以上の「グローバル」という特徴語は「日本生活によって母国への見方が変わり、グローバルな目を持てるようになった」という回答からのもので、時間とともに個人の価値観や考え方にも変化が生じていることがわかる。また、各群の特徴語を俯瞰的に観察してみると、表9と表10ともに「文化」や関連する「異文化」という語は「1年未満」にはなく、「1年～3年未満」以降に見られることから、体験や経験が期間を経て文化の理解に発展していくと考えられる。さらに、表9では1年未満の「自信」から1年～3年未満の「自立」へ、そして3年～5年未満の「自立」という時間の流れによる変化もうかがえる。

表9 「日本に留学してよかったこととその理由」での在日期間別の特徴語

1年未満		1年～3年未満		3年～5年未満		5年以上	
日本語	.098	文化	.112	日本語	.081	やり方	.071
友達	.064	日本人	.045	生活	.080	分かる	.067
体験	.062	友達	.045	勉強	.062	出会う	.061
勉強	.056	理解	.039	良い	.037	経済	.056
日本人	.039	能力	.030	理解	.037	交流	.056
少ない	.039	一人暮らし	.027	学ぶ	.034	生活	.051
考える	.038	経験	.027	能力	.030	考え方	.051
自信	.037	異文化	.026	自立	.028	日本人	.036
聞く	.037	多い	.024	考え方	.028	コンテスト	.036
話す	.037	独立	.024	異文化	.027	ボランティア	.036

表10 「将来の人生に役立つこととその理由」での在日期間別の特徴語

1年未満		1年～3年未満		3年～5年未満		5年以上	
経験	.100	生活	.145	仕事	.055	変わる	.077
役立つ	.078	役立つ	.111	就職	.049	目標	.077
日本語	.068	人生	.081	文化	.033	仕事	.073
働く	.049	学ぶ	.050	勉強	.030	理解	.067
会社	.046	日本人	.046	大学	.027	文化	.050
考える	.046	能力	.040	独立	.024	グローバル	.042
学ぶ	.041	解決	.030	強い	.020	メリット	.042
メール	.037	会社	.029	守る	.020	苦しい	.042
就職	.037	アルバイト	.022	ルール	.020	取り掛かる	.042
使う	.036	持つ	.018	自立	.020	周り	.042

(2) 日本生活での問題解決

問3の「日本生活での失敗・不安とその理由」と、問4の「日本生活での失敗・不安の解決法」への回答から、在日期間別の特徴語をまとめたのが表11と表12である。

ここでjaccard 係数が0.1を超えるのは、表11と表12ともに3年～5年未満の「日本語(0.107, 0.103)」である。まず、表11で見ると、1年未満で「発音・伝える(否定)」からコミュニケーション上の問題に気づいた様子がうかがえ、さらに、「家族・うつ病」から、ホームシックなどの精神的な不安定も見受けられる。また、1年～3年未満の「アルバイト・日本人・外国人・違う」という語から、異文化接触場面における異文化摩擦の可能性があるとともに、5年以上の「クレジットカード・区民・係長」という語からも、より積極的かつ実質的に日本社会の一構成員として定着していく過程で失敗や不安を感じる様子も見られる。

これらの失敗や不安をどうやって解決したかという質問への回答が表12に特徴語としてまとめられているが、まず、1年未満では「文化・友達・シェア」という語が、表11の「発音・伝える(否定)」「家族・うつ病」とリンクしていると思われる。また、1年～3年未満では「友達・先輩」が、3年～5年未満では「日本人・先生」が問題解決のキーになっている様子がそれぞれの特徴語からうかがえる。

表11 「日本生活での失敗・不安とその理由」での在日期間別の特徴語

1年未満		1年～3年未満		3年～5年未満		5年以上	
発音	.046	困る	.084	日本語	.107	間違える	.077
取る	.044	生活	.081	困る	.079	言葉	.056
伝える(否定)	.044	不安	.065	不安	.071	多い	.056
家族	.044	アルバイト	.048	失敗	.057	仕事	.054
授業	.043	日本人	.048	アルバイト	.040	日本語	.046
先生	.043	知る(否定)	.025	最初	.037	クレジットカード	.040
最初	.033	外国人	.025	勉強	.031	教える	.040
うつ病	.023	大変	.025	試験	.024	区民	.040
クラス	.023	違う	.024	大学	.024	係長	.040
コマ	.023	多い	.021	仕事	.024	携帯	.040

表12 「日本生活での失敗・不安の解決法」での在日期間別の特徴語

1年未満		1年～3年未満		3年～5年未満		5年以上	
文化	.049	解決	.077	日本語	.103	解決(否定)	.071
友達	.046	友達	.065	勉強	.098	日本語	.055
見る	.044	頑張る	.053	日本人	.059	意味	.053
解決	.043	慣れる	.023	アルバイト	.033	楽しい	.053
お互い	.027	読む	.023	先生	.032	区役所	.053
キャンセル	.027	能力	.023	解決(否定)	.028	誤解	.053
コマ	.027	方法	.018	生活	.028	書類	.053
シェア	.027	経験	.018	コミュニケーション	.024	状態	.053
機械	.027	先輩	.018	話す	.024	心理	.053
銀行	.027	相手	.018	仕事	.020	代わる	.053

(3) 日本生活に必要な能力

問5の「日本生活に必要な能力」と、問6の「日本生活に必要な能力のためにすべきこと」への回答から、在日期間別の特徴語をまとめたのが表13と表14である。

ここでjaccard 係数が0.1を超えるのは、表13で1年～3年未満の「日本語 (0.205)」と3年～5年未満の「能力 (0.220)」, 表14で1年未満の「積極 (0.119)」, 1年～3年未満の「日本語 (0.178)・勉強 (0.129)」, 3年～5年未満の「能力 (0.100)」である。「能力」は質問に含まれる用語であることが影響していると考えれば、日本語学習と積極的な態度が留学生みずからが考える「日本生活に必要な能力」であることがわかる。もっと具体的に見てみると、表13では1年未満と1年～3年未満で「社交・性格・文化」といった人的ネットワーク作り、つまり社会的スキルに関わる語と、「日本語・学習・聞き取る・勉強」といった日本語学習に関する語が共通して見られる。また、3年～5年未満と5年以上では、「向上心・リーダーシップ・チームワーク・関係」といった自己実現に関する語が目立つ。

これらの傾向に連動しているのが、「このような能力を身につけるために何をしたか、すべきか」という質問への回答による特徴語の表14の内容である。表14では、1年未満と1年～3年未満では「積極・参加・イベント・活動・交流・友達」といった社会的スキルに関わるもの、「授業・受ける・日本語・勉強・練習」といった日本語学習に関わ

表13 「日本生活に必要な能力」での在日期間別の特徴語

1年未満		1年～3年未満		3年～5年未満		5年以上	
社交	.078	日本語	.205	能力	.220	大切	.086
日本語	.064	必要	.089	コミュニケーション	.080	知る	.069
能力	.061	生活	.048	生活	.044	考える	.067
学習	.052	社交	.045	英語	.039	リーダーシップ	.063
積極	.050	勉強	.038	積極	.035	社会	.057
聞き取る	.046	文化	.031	態度	.031	コミュニケーション	.045
性格	.044	充実	.023	学習	.028	生活	.038
話す	.041	解決	.023	言語	.025	チームワーク	.037
日本人	.039	就職	.020	向上心	.021	外国	.037
解決	.036	経験	.020	話せる	.018	関係	.037

表14 「日本生活に必要な能力のためにすべきこと」での在日期間別の特徴語

1年未満		1年～3年未満		3年～5年未満		5年以上	
積極	.119	日本語	.178	能力	.100	出る	.074
参加	.077	勉強	.129	努力	.077	読む	.073
日本人	.067	日本人	.067	高める	.059	新聞	.071
授業	.053	友達	.044	頑張る	.054	日本人	.067
話題	.047	練習	.041	英語	.048	試験	.061
イベント	.046	積極	.041	友達	.046	日本語	.048
活動	.041	見る	.037	コミュニケーション	.044	アルバイト	.046
番組	.041	授業	.033	アルバイト	.039	見る	.046
話す	.039	話す	.025	読む	.035	交流	.046
交流	.033	受ける	.021	交流	.035	友達	.039

るものが特徴語としてまとめられている。つまり、交流活動を通した人的ネットワーク拡大に励むことで文化理解や社会的態度を身につけ、授業などで日本語学習に力を注ぐことで聞き取りや話す力を養おうとしている様子が見て取れる。なお、表14の3年～5年未満と5年以上では「アルバイト・英語・試験」といった語が特徴的で、「日本生活に必要な能力」の実態が留学生の意識の中でより具体化しつつあることがわかる。

以上、在日期間別の特徴語について考察した。予測どおり、1年未満の群で見られた、精神的な不安定を積極的な交流活動を通して克服しようとする様子が、身分別の短期留学生の傾向に共通する面が少なくない。一方、在日期間が長くなっていくにつれて留学生が直面する異文化摩擦や日本生活で必要とする能力がより具体化していく様子も今回の分析で明らかになった。

4.2.3 日本語能力別の傾向

アンケートの際に被験者の日本語能力を図る基準として、合格した JLPT のレベルを確認した。その結果は、表15のとおりだが、未受験では日本語力を判断できないのと、N4とN5は1名ずつしかおらず、傾向としてまとめられないことから、本稿では、N1、N2、N3という3つの区分をもって、各群の特徴語を考察する。

表15 日本語能力別の人数

日本語能力	N1	N2	N3	N4	N5	未受験
人数	33	107	14	1	1	42

※ほか、未記入5名

(1) 日本留学の意義

問1の「日本に留学してよかったこととその理由」と、問2の「将来の人生に役立つこととその理由」への回答から、日本語能力別の特徴語をまとめたのが表16と表17である。

ここで、jaccard 係数が0.1を超えるのは、表17で N2の「生活 (0.143)」のみである。まず、表16で N3の「学ぶ・文化・新しい・知識」、N2の「理解・経験(体験)・考え方」、N1の「比べる・違う」という特徴語に注目してみると、日本語能力がまだ低いほうで「一方的な受容」に関わる語、日本語能力が高いほうで「主体的な調整」に関わる語となっており、それぞれの特徴語に日本語能力による違いが表れているという予測が可能である。また、表17の「将来の人生に役立つことと理由」では、どの群でも「経験(体

表16 「日本に留学してよかったこととその理由」での日本語能力別の特徴語

N1		N2		N3	
生活	.072	生活	.089	学ぶ	.094
大学	.052	勉強	.066	日本人	.083
出会う	.035	友達	.045	勉強	.070
比べる	.035	良い	.041	文化	.061
留学生	.034	理解	.041	作る	.054
静か	.027	能力	.035	仕事	.054
違う	.025	経験	.033	役立つ	.040
技能	.018	異文化	.027	人生	.036
参加	.018	体験	.027	新しい	.035
乗る	.018	考え方	.025	知識	.035

表17 「将来の人生に役立つこととその理由」での日本語能力別の特徴語

N1		N2		N3	
役立つ	.094	生活	.143	頑張る	.082
考える	.053	人生	.078	役立つ	.073
文化	.051	就職	.054	生活	.060
日本人	.048	経験	.054	仕事	.051
経験	.045	仕事	.054	人生	.043
日本語	.040	日本語	.040	ガイド	.043
挑戦	.028	学ぶ	.038	日本人	.042
他人	.028	独立	.027	住む	.040
考え方	.028	社会	.026	入る	.040
人々	.027	会社	.026	体験	.036

験)」という語が取りあげられており、そのために、日本語能力に関係なく意欲的に取り組んでいることが、N3の「頑張る」、N2の「独立」、N1の「挑戦」という特徴語からも感じ取れる。それぞれの実際の回答における文脈は、「頑張れば成功できる」、「独立性が上がる」、「日本で就職のために、新たな挑戦をする」といったもので、留学生の日本留学への希望と目標への思いがうかがえる。

(2) 日本生活での問題解決

問3の「日本生活での失敗・不安とその理由」と、問4の「日本生活での失敗・不安の解決法」への回答から、日本語能力別の特徴語をまとめたのが表18と表19である。

ここで、jaccard 係数が0.1を超えるのは、表19でのN2の「日本語 (0.110)」のみであるが、この結果から、「日本生活での失敗や不安を挽回するために、日本語学習がもっとも重要だ」という意識が、日本語力の高いN2の留学生にも根強いことがわかる。N3の群では、表18と表19の両方に「日本語」という語が上位に位置づけられており、日本語能力が低い留学生ほどその傾向が強いのかもしれない。それは、N1に「日本語」と

表18 「日本生活での失敗・不安とその理由」での日本語能力別の特徴語

N1		N2		N3	
不安	.063	困る	.094	日本語	.056
日本人	.063	生活	.080	生活	.054
失敗	.046	不安	.069	困る	.052
外国人	.044	最初	.037	英語	.041
違う	.034	仕事	.029	会話	.039
最初	.032	違う	.023	地震	.038
保険	.028	多い	.023	多い	.034
気持ち	.027	勉強	.023	仕事	.033
大変	.026	分かる(否定)	.018	バイク	.021
言葉	.025	友達	.017	プレッシャー	.021

表19 「日本生活での失敗・不安の解決法」での日本語能力別の特徴語

N1		N2		N3	
解決	.078	日本語	.110	生活	.091
解決(否定)	.053	友達	.066	日本語	.069
日本人	.046	日本人	.049	勉強	.064
頑張る	.038	能力	.029	失敗	.054
大事	.034	考える	.025	上手	.051
文化	.033	コミュニケーション	.025	経験	.050
話す	.032	生活	.025	探す	.049
先生	.030	見る	.022	頑張る	.037
我慢	.023	学校	.018	駅員	.029
進学	.023	聞く	.018	間違える	.029

いう語が見られないことから推測できる。なお、困った場合に助けを求める対象として、表19を見るとN3で「駅員」、N2で「友達・日本人」、N1で「日本人・先生」という語が示されている。

表18でN1の「日本人・外国人・違う」という語は、「外国人に偏見を持っている日本人がいる」「バイトでの働き方が違うと指摘された」という文脈で用いられ、これは異文化摩擦の経験によるものと言える。しかし、そういったトラブルは、表19でのN1の「解決（否定）・我慢」という語からわかるように、まだ解決できていない場合も少なくない。実際の回答には、「日本社会はルールに囚われすぎて、個人の能力の発揮に妨げになることが多く、我慢できずに帰国する友達が多い」という内容があった。

(3) 日本生活に必要な能力

問5の「日本生活に必要な能力」と、問6の「日本生活に必要な能力のためにすべきこと」への回答から、日本語能力別の特徴語をまとめたのが表20と表21である。

ここでjaccard 係数が0.1を超えるのは、表20でN2の「能力（0.234）」、表21でN2の「日本語（0.171）」である。やはりここからも留学生在が日本語力の重要性を強く意識し

表20 「日本生活に必要な能力」での日本語能力別の特徴語

N1		N2		N3	
コミュニケーション	.078	能力	.234	日本語	.072
英語	.059	必要	.088	向上心	.063
勉強	.057	コミュニケーション	.068	充実	.063
社交	.047	生活	.047	最初	.051
生活	.046	社交	.044	社交	.049
知識	.043	積極	.035	友達	.049
文化	.043	学習	.033	生活	.047
知る	.036	態度	.030	必要	.047
大学	.036	解決	.027	コミュニケーション	.038
リーダーシップ	.035	大切	.024	態度	.038

表21 「日本生活に必要な能力のためにすべきこと」での日本語能力別の特徴語

N1		N2		N3	
英語	.058	日本語	.171	頑張る	.071
アルバイト	.057	能力	.101	日本語	.070
積極	.055	練習	.046	勉強	.065
頑張る	.053	交流	.046	作る	.063
友達	.053	高める	.046	日本人	.060
作る	.048	見る	.039	直面	.059
見る	.047	アルバイト	.036	態度	.049
高める	.046	参加	.030	コミュニケーション	.044
取る	.041	学校	.027	英語	.042
理解	.041	番組	.020	練習	.040

ていることがわかる。ほかには、まず表20を見ると、N1、N2、N3ともに共通して見られる「コミュニケーション・社交」とともに、N1では「英語・リーダーシップ」、N2では「積極・態度」、N3では「向上心」といった異文化間能力、社会的スキルに関連が強い語が特徴語として示されている。これらは一見、留学生が日本生活に必要な能力として、社会的スキルを目指しているようにも映るが、一方で、アンケート調査の際にこちらから提示した「社交性・リーダーシップ・積極的な態度・向上心」といった例示に、単純に引きずられた結果である可能性も無視できない。

表21を見ると、N1の「友達・作る」は人的ネットワーク作りに関わる語で、N2の「日本語・練習・高める」、N3の「日本語・勉強・練習」は日本語学習に関わる語が特徴語としてまとめられている。前述したように、日本語能力が低いほど、「日本生活に必要な能力」として日本語力が重要だと意識する傾向が強く、日本語能力が高くなると、日本語学習以外のところに目を向けるようになる傾向が強いと考えられる。また、N1とN2で共通して見られる「アルバイト」という特徴語においても、それぞれの文脈には若干違いが見られる。N1では「大学院進学のため英語を勉強したいので、アルバイトを減らしたい」「アルバイトやボランティア活動でチームワークを学ぶ」といった内容なのに対して、N2では「日本語だけ使う環境でアルバイトしている」「アルバイトで日本語能力が身につく」「アルバイト先でスタッフとしゃべって日本語を練習する」といった内容で、アルバイトを日本語学習の一環として考える傾向が見受けられる。ちなみに、N1とN3で共通して「英語」という語が示されているが、現在の自分の日本語能力に関係なく、英語学習も重要な目標の1つとして考えていることがわかる。

以上、日本語能力別の特徴語について考察した。日本語能力が低ければ低いほど、「日本生活に必要な能力」として日本語を重視する傾向が強く見られ、日本語能力が高い方ではチームワークや積極的な態度といった社会的スキルの方に徐々に目を向ける様子がうかがえた。

4.2.4 国籍別の傾向：中国・ベトナムを中心に

本研究に協力してもらった外国人留学生の国籍は、表22のとおり計15ヵ国である。しかし、1、2名の国も多く、今回はもっとも人数の多い中国とベトナムのみを取りあげて、両群の特徴語を考察する。

表22 国籍別の人数

国籍	中国	ベトナム	韓国	マレーシア	スリランカ
人数	117	57	5	3	3
国籍	ネパール	タイ	インド	インドネシア	バングラデシュ
人数	2	2	2	2	2
国籍	モンゴル	台湾	ドイツ	フィンランド	ウズベキスタン
人数	2	1	1	1	1

※ほか、未記入2名

(1) 日本留学の意義

問1の「日本に留学してよかったこととその理由」と、問2の「将来の人生に役立つこととその理由」への回答から、中国とベトナムの留学生の特徴語をまとめたのが表23と表24である。

両群の中で jaccard 係数が0.1を超えるのは、表24でベトナムの「生活 (0.116)」のみである。まず、「日本留学でよかったこと」に回答した表23での両群の特徴語を見比べてみると、中国は「異文化・視野・比べる・世界」という語から、グローバルな考え方や視点を求める傾向がうかがえる。一方、ベトナムは「文化・勉強・学ぶ・自立・経済・仕事」という語から、日本を学び就職などの自己実現につなげたいという意識が強いようである。このような就職という直接的な将来の目標に関する意識は、表24で中国・ベトナムの両方に共通する「就職・会社・仕事・働く」という語からも読み取れる。この傾向は、前述した4.2.2の在日期間別の分析で表10にすべての群に共通して見られた「働く・会社・仕事・就職」といった特徴語とも重なっており、中国・ベトナムという両群のみでなく、日本の大学で学ぶ外国人留学生にとって、「留学経験を就職活動に生かす」というのは、留学の目的の根底を成すものであることがよくわかる。なお、両群

表23 「日本に留学してよかったこととその理由」での中国・ベトナムの特徴語

中国		ベトナム	
生活	.083	文化	.093
理解	.052	日本人	.080
能力	.049	勉強	.080
好き	.030	良い	.063
異文化	.030	学ぶ	.033
視野	.022	自立	.030
見る	.022	卒業	.025
比べる	.016	触れる	.025
研究	.016	経済	.025
世界	.016	仕事	.025

表24 「将来の人生に役立つこととその理由」での中国・ベトナムの特徴語

中国		ベトナム	
就職	.052	生活	.116
独立	.030	役立つ	.094
能力	.029	仕事	.088
会社	.024	日本人	.075
ルール	.021	人生	.071
大学	.021	日本語	.036
解決	.019	働く	.034
困難	.019	社会	.033
守る	.016	文化	.032
言語	.016	勉強	.032

の違いと言えるものに表24での中国の「独立・解決」という語があるが、これは上記の表23で中国の特徴語から導き出した「グローバルな考え方や視点への追求」に相通じる、いわゆる「汎用的能力」に関わる要素であると考えられる。

(2) 日本生活での問題解決

問3の「日本生活での失敗・不安とその理由」と、問4の「日本生活での失敗・不安の解決法」への回答から、中国とベトナムの留学生の特徴語をまとめたのが表25と表26である。

ここで、jaccard 係数が0.1を超えるのは、表25で中国の「日本語 (0.100)」とベトナムの「困る (0.119)」, 表26でベトナムの「日本語 (0.113)」であり、ここからも日本語力不足で困っている留学生の様子がうかがえる。表25の「日本生活での失敗・不安」についての回答で、中国の群では「日本語・難しい」のほかに「留学生・交流」といって人的ネットワーク作りの難しさが示されている。表26で両群に共通しているのは、「勉強」, そして同じ意味の「努力」と「頑張る」であり、これらは「日本語がしゃべれるように頑張りました」「日本語も努力して勉強した」「頑張って勉強して、自分の目標にむけて努力」のように、同一文面で一緒に用いられることが多く、問題解決の方法として「日本語能力」を重視する姿勢が浮き彫りになっている。ちなみに、表26でベトナムの「調べる・方法」という語は、それぞれ「わからないことがあればメモして、後で調べる」「その勉強の方法で乗り越えた」という文脈からのもので、単純に「努力・頑張る」だけでなく、具体的な方法についても考えていることがわかる。

表25 「日本生活での失敗・不安とその理由」での中国・ベトナムの特徴語

中国		ベトナム	
日本語	.100	困る	.119
難しい	.019	生活	.111
大学	.019	不安	.088
下手	.017	アルバイト	.054
留学生	.017	日本人	.053
交流	.017	失敗	.048
探す	.017	多い	.036
学校	.016	分かる(否定)	.031
試験	.016	大変	.031
電話	.014	能力	.026

表26 「日本生活での失敗・不安の解決法」での中国・ベトナムの特徴語

中国		ベトナム	
勉強	.095	日本語	.113
解決	.070	勉強	.082
生活	.038	頑張る	.069
先生	.038	日本人	.048
解決(否定)	.028	調べる	.027
アルバイト	.024	方法	.027
努力	.021	学ぶ	.026
コミュニケーション	.021	考える	.026
能力	.021	能力	.026
慣れる	.017	会話	.020

(3) 日本生活に必要な能力

問5の「日本生活に必要な能力」と、問6の「日本生活に必要な能力のためにすべきこと」への回答から、中国とベトナムの留学生の特徴語をまとめたのが表27と表28である。

ここで jaccard 係数が0.1を超えるのは、表27で中国の「能力 (0.249)」とベトナムの「日本語 (0.149)」, 表28で中国の「勉強 (0.141)」とベトナムの「日本語 (0.135)」である。4.2.3での日本語能力別の特徴語と同じく、ここでも留学生の日本語力重視の意識が強く表れている。この傾向に付随して、「必要な能力のためにすべきこと」への回答である表28では、「努力・頑張る」のほかに「練習・単語・学ぶ・試験」といった具体的な学習方法に関わる語も示されている。また、中国とベトナムの特徴語の相違点に注目すると、表27での中国の「社交・交流」、ベトナムの「スキル・仕事」という語から、社会活動に注目する中国人留学生と、自己啓発に注目するベトナム人留学生という傾向が映し出される。これは、表28での中国の「交流・積極」、ベトナムの「高める・アルバイト」という特徴語ともつながっている。

以上、国籍別の特徴語について中国・ベトナムの留学生の結果を中心に考察した。両群とも日本語力不足による不安を感じ、日本生活に必要な能力として日本語能力をもっとも重視していることは共通している。一方で、中国の群にグローバルシティズンとしての汎用的・社会的スキルについての語が、ベトナムの群に比べて目立っていることも1つの傾向と言える。

表27 「日本生活に必要な能力」での中国・ベトナムの特徴語

	中国		ベトナム
能力	.249	日本語	.149
日本語	.205	コミュニケーション	.123
社交	.050	必要	.107
勉強	.036	生活	.063
解決	.031	充実	.050
学習	.031	大切	.045
英語	.025	スキル	.040
向上心	.022	文化	.039
持つ	.017	仕事	.034
交流	.017	勉強	.032

表28 「日本生活に必要な能力のためにすべきこと」での中国・ベトナムの特徴語

	中国		ベトナム
勉強	.141	日本語	.135
努力	.065	能力	.127
交流	.054	頑張る	.077
友達	.049	高める	.066
積極	.046	アルバイト	.061
授業	.038	学ぶ	.050
練習	.034	英語	.049
生活	.029	コミュニケーション	.043
単語	.022	見る	.042
多い	.022	試験	.038

5. まとめ

以上、本研究では、外国人留学生へのアンケート調査を通して、彼らが日本留学に対してどのような意義を感じているか、また異文化に対してどのような意識を持っているかについて考察した。分析では、計量テキスト分析（テキストマイニング）のために開発された KH Coder を使用し、中でも、共起ネットワークによって抽出された話題（概念）を分析する「概観分析」と、外部変数によって抽出された特徴的な語を分析する「特徴語分析」の2つの手法を用いた。

まず、「概観分析」では、設問項目に沿って、(1)日本留学の意義、(2)日本生活での問題解決、(3)日本生活で必要な能力の3つに分けて考察を行った。その結果、日本で学ぶ外国人留学生は、異文化でのコミュニケーション能力の獲得、新たな環境での新たな知識の獲得、そして一人暮らしやアルバイトなどの新たな体験からの精神的な成長を日本留学の意義として認識しており、それらが今後の進路選択に役に立つと考えていることがわかった。また、ほとんどの留学生は日本留学の中で、学業、生活、コミュニケーション上のさまざまな不安を抱えており、その問題解決の方法として、メタ認知を働かせて学習を管理したり、社会的戦略を活用したり、環境や時間などの外的要因にゆだねるなどの方略を取っている。このように、コミュニケーション能力と日本語能力を高め、精神的な成長を促すために、留学生自身が考える日本生活で必要な能力とは、学習を管理するメタ認知能力に加えて、自分から進んで行動する積極性や自立心であり、自らの意欲や態度の重要性を自覚していることがわかった。

次に、「特徴語分析」では、被験者の身分、在日期间、日本語能力、国籍の4つを外部変数として取りあげ、変数別の傾向を考察した。その結果、(1)身分別の特徴語から、短期留学生の交流重視の傾向や、学部生の勉学と生活の両立、大学院生の研究志向という傾向が見られた。(2)在日期间別の特徴語からは、積極的な交流活動を望む1年未満の群が短期留学生の傾向と重なっていることや、在日期间が長くなるにつれて日本生活で必要な能力へのイメージも具体化していく様子がうかがえた。また、(3)日本語能力別の特徴語では、日本語能力が低い方で日本語重視の傾向が強い反面、日本語能力が高い方では社会的スキルの重要性を意識する傾向が見られた。最後に、(4)国籍別の特徴語では、中国・ベトナムの留学生の結果を中心に考察した結果、両群とも日本語能力の重視という共通点がある一方で、とりわけ中国の群に汎用的・社会的スキルについての語が目立つという特徴も見られた。

以上のように、外国人留学生が日本生活のどこでつまずき、それをどう解決しているか、また彼らがみずから必要だと感じる異文化間能力とは何かを、俯瞰的に見渡し、さらに外部変数別の傾向までを一通りまとめることができた。不安の要因や問題解決のための方策、必要とする能力のすべてにおいて、「日本語」が中心的な要素として強く意

識されていることは、先行研究での指摘に共通するところである。しかし、前述した岩尾・萩原（1988）で指摘したような、在日期間と批判的な思考の関連性は今回の分析結果からは認められず、むしろ在日期間の長期化による目標の具体化、可能性の広がりを示唆する回答が見られたことは注目に値する。さらに、日本語能力が高いほど、社会的スキルを重視する傾向があるという結果からも、日本社会への積極的な参加の姿勢を見出すことができ、岩尾・萩原（1988）の結果と比較すると、日本社会に対して肯定的な態度を持っていることがうかがえる。

また、人数の不均衡があったとしても、本稿で新たに導入した「特徴語分析」という手法を通して、身分、在日期間、日本語能力、国籍といった外部変数が、外国人留学生的の日本留学や異文化間能力に対する意識に影響を与える可能性が示唆されたことは、大変意義があると考えられる。これまでの「概念分析」だけでは捉えにくかった個別的な要素との関係が表面化でき、今後の本研究の方向性を探る上で一助になると考える。

冒頭で述べたように、留学の大衆化が進み、留学の価値が転換期を迎えた今だからこそ、留学生に対するより細かな対応が求められている。よって、今後、外国人留学生に対する授業や指導などの際には、それぞれの属性や文化的背景、日本語力などを考慮しつつ、彼らが異文化にうまく適応できるように、必要なサポート体制や大学側の意識、態度にもさらなる改善と工夫が必要であろう。そこで、本稿で示唆された留学生の意識や傾向を、今後の実践研究の広がりへの足掛かりとして活用していきたい。

【注】

(1) 「最小 jaccard 係数・共起ネットワーク [スレッド] KH Coder 旧掲示板」

https://kncoder.info/cgi-bin/bbs_khn/khcf.cgi?no=1313&mode=allread#1316（最終閲覧日 2021年11月13日）

【参考文献】

- 岩男寿美子・萩原滋（1988）『日本で学ぶ留学生—社会心理学的分析—』勁草書房
- 国立教育政策研究所（2016）『資質・能力 理論編』東洋館出版社
- 樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 永岡悦子・鄭恵先（2018）「学習者の視点からみた汎用的能力の再考—異文化理解に対する外国人留学生的の意識調査をもとに—」ヴェネチア2018年日本語教育国際大会
- 永岡悦子（2019）「リテラシーと異文化間能力：異文化理解に対する外国人留学生的の意識調査をもとに」2019 CAJLE Annual Conference Proceedings pp.195-204
- 永岡悦子（2020）「異文化理解に対する外国人留学生的の意識調査—中国人留学生とベトナム人留学生的の比較から—」『流通経済大学流通情報紀要』24巻 2号 pp.51-76

流通経済大学三十年史編纂室（1998）『流通経済大学三十年史』 流通経済大学出版会

付記：本研究は, JSPS 科研費「外国人留學生が行為主体者として求めるグローバル・シティズンシップの検証」（19K00713）の助成を受けたものである。

謝辞：調査に協力して下さった留學生の皆さんに心より感謝申し上げます。